



2014年9月24日

財務大臣 麻生 太郎 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)  
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛  
同 保存問題委員会 委員長 安達文宏  
同 千代田地域会 代表 篠田義男



## 「九段会館」の歴史的重要性を未来へ継承することのお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
貴省におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

貴省所有の、東京都千代田区の九段会館に関する以下のお願いに先立ち、2011年3月11日の東日本大震災での天井崩落事故の犠牲者の方々に対し、弊会としましても心から哀悼の意を表します。

さて、事故を契機に閉館した九段会館の取り壊しについて、過日、新聞で具体的な報道がされました。それによると跡地はPFI方式により国が民間事業者に土地を貸し付け、事業者が高層ビルを建設し、国は建物の一部を特定施設として取得した上で日本遺族会に無償で貸し付け、同会がこれまでどおり事務所として使う、という構想となっております。

九段会館は、1934(昭和9)年に軍の予備役・後備役の訓練・宿泊を目的に、宿泊部分や大講堂をもつ「軍人会館」として竣工しました。1936年の「2・26事件」の際には戒厳司令部が置かれ、1940年には大政翼賛会がここで結成式を挙げ、また戦後は一時、連合軍総司令部(GHQ)に接收されるなど、日本の現代史の重要な節目の舞台となって来ました。GHQから土地と建物が国に返還された後に「九段会館」と名称を変更し、1953年から財団法人日本遺族会に無償で貸し出され、同会がホテル、ホール(大講堂)、レストラン、事務所等を運営してきたのはご高承のとおりです。

軍人会館は競技設計が行われ、一等当選案は小野武雄、実施設計は川元良一、技術顧問は日本の近代建築の礎を築いた一人である伊東忠太、大講堂の音響設計はその分野の先駆的建築家、佐藤武夫となっております。小野武雄は、大蔵省営繕管財局で、1930(昭和5)年竣工の旧横浜地方裁判所を設計した技官です。また川元良一は、三菱合資会社で桜井小太郎の下「丸ビル」の設計などに携わり、その後同潤会の設計部長として、1932(昭和7)年竣工の銀座アパートメント(現：奥野ビル)、青山同潤会アパートなど、建築史上重要な建物群を設計しています。

九段会館の外観は、競技設計の「容姿ハ国粹ノ気品ヲ備ヘ荘厳雄大ノ特色ヲ表現スル」という条件を具現化しようとしたものと言われ、国際的な近代主義に対抗しようとした昭和初期の意匠の流れにあり、洋風の建物の上に和風の屋根を載せた、いわゆる「帝冠様式」の典型にも挙げられます。他方、ここでは垂直方向を強調しつつ、下部のスクラッチタイルに対比させる白い4階外壁により水平も同時に強調した意匠とし、内外の随所のディテールにも意を尽くし、複合的な用途に対応した当時最新の音響計画、設備技術を採用するなど、密度の高い設計がなされています。

北の丸公園を背に、濠を挟んで建設された九段会館は、千代田区景観まちづくり重要物件第一号に指定されており、戦争という過去を直視させる証言者としての歴史性、昭和初期の建築物の実例としての希少性、さらに九段下の風景を長く形成してきた景観資産的価値から考えれば、千代田区のみならず我が国にとって、極めて重要な建築物であると言えます。

今後、計画の詳細を検討されるにあたっては、九段会館の歴史的・文化的・景観的な価値を積極的に活かすべく、その原形を可能最大限まで保存して活用を図り、この建物の持つ意義を正しく後世へと引き継いで頂けますよう、ここに切に、お願い致します。

なお、公益社団法人日本建築家協会としましても、出来る限りの協力をさせて頂く所存であることを申し添えます。

敬具